

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業				本年度担当課	文化推進課
					前年度担当課	文化推進課
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		新規・継続	継続事業
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり		実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	文化芸術活動の推進		市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	文化資源の有効活用		任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名	
	一般	02	01	17	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成18年度 ~		
根拠法令・条例等	佐野市補助金等交付規則、佐野ルネッサンス鑄金展交付金交付要領					

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
全国からの鑄金作品を公募し、展示することで、鑄造技法により創作活動をする作家や学生の交流拠点として、天明鑄物の街である本市をアピールする。 従来、隔年開催であったが、平成29年開催の第9回展からは、3年に一度の開催で、鑄金展を開催しない年には、鑄物に関連した事業を開催している。 鑄金展を円滑に運営するため、「佐野ルネッサンス鑄金展実行委員会」を設け、開催運営交付金を交付している。			市の活動：佐野ルネッサンス鑄金展実行委員会の交付金を交付。実行委員会に出席 (2回) 団体の活動：R4年度に開催する第10回佐野ルネッサンス鑄金展のための実行委員会開催 (2回) ・9/24 (土) ~ 25 (日) にアルシオーネ・コート佐野で第10回佐野ルネッサンス鑄金展を開催							
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			募集要項の発送件数	件	0	0	-	-	-	
			チラシ発行枚数	件	0	6,000	-	-	-	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
全国の鑄金作家及び学生 美術愛好者			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			募集要項の発送件数	件	0	0				
			個人向けチラシの発送枚数	件	0	1,057				
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
鑄金展を鑄金造型の自由な発表と捉え、作品を出品してもらい、歴史ある鑄物の街で作家間の交流が図られている。 多くの人が鑄金展を鑑賞し、鑄金作品を身近に感じることで、天明鑄物への興味関心を高めてもらう。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			出品者数	人	目標					
					実績	-	-			
			展示会入場者数	人	目標					
					実績	-	739			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
特色ある地域資源の有効活用を図り、地域の活性化につなげる。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			市内の文化財を知っている割合 (天明鑄物)	%	目標			76	76.5	77
					実績	69.3	72.5			
					目標					
					実績					

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	340	1,988	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	340	1,988	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	1,988		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.5	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	3,644	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	340	5,632	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野ルネッサンス鑄金展開催事業	本年度担当課	文化推進課
		前年度担当課	文化推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成10年度に、旧佐野市の市制55周年記念事業として、天明鑄物を受継ぐ鑄物の街としてアピールするために始まった。途中、財政事情により、平成15年度から休止していたが、合併後、市民からの強い要望により、平成18年度に再開した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	鑄金は、制作過程に危険が多いのと、専門的な施設が必要なこともあり、芸術系大学での鑄金コースが減少している。また、作家の高齢化も進み、国内の鑄金界は深刻な状況にあることが、鑄金展の出品数の減少傾向に拍車をかけている。しかし、一方で、鑄金展の来場者は増加傾向にあり、根強いファンや鑄物に関心を寄せる人が微増しているといえる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	来場者からは、また、大賞作品展を開催して欲しいという意見や作品の常設展示を望む声があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	鑄金展は、令和4年度の10回展をもって事業終了し、鑄金展のレガシーを引き継ぐ取り組みを進めることとなった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつくが見直しの余地がある	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
今年度は、公募展ではなく、歴代大賞作品を展示したため、出品者はいなかった。		R4年度で、鑄金展そのものは終了とし、鑄金展のレガシーを残すために、多くの鑄金作家が所属する（公社）日本工芸会の事業への参画をすることになった。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名	天明鑄物のまちづくり推進事業				本年度担当課	文化推進課
					前年度担当課	文化推進課
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		新規・継続	継続事業
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり		実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	文化芸術活動の推進		市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	文化資源の有効活用		任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名	
	一般	02	01	17	天明鑄物のまちづくり推進事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	令和2年度 ~		
根拠法令・条例等	市補助金等交付規則、市地域おこし協力隊設置要綱、天明鑄物地域団体商標登録出願業務補助金交付要領					

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
天明鑄物の認知度向上、ユーザー増、製品開発、販路開拓、後継者育成といった、天明鑄物のまちづくり推進計画が掲げる目標を実現する取組として、地域おこし協力隊の制度を活用し、市内外の人々に向けたワークショップや見学会等のイベントや講座の開催及び市内の観光スポット等での呈茶を実施することにより、移住・定住につながる関係人口の拡大を図る。 併せて、天明鑄物の品質やブランド力を維持強化するために、鑄物事業者及び佐野商工会議所と連携して地域団体商標登録実現を目指す。				・佐野市茶華道協会と連携し、田村耕一美術館（閑馬町）で、「田村耕一と天明鑄物 ふるさとの銘品に出会う会」（茶会）R4.11.27開催。来場者75人 ・佐野市天明鑄物振興協議会主催の「天明鑄物発見！体験フェア」に企画 R5.2.10~12 於：道の駅どまんなかたぬま 1,500名来場 ・天明鑄物の地域団体商標登録（R5.1.19） ・地域おこし協力隊の募集を年間3回行ったが応募なし（R5.2月減額補正）							
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
メディアでの掲載回数		件	19	41	57	60	60				
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
市民、観光客				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
人口				人	116,982	115,700	113,710	113,010	112,327		
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
天明鑄物に対する興味関心を深め、購入し所有することで製品の素晴らしさに気づく。 天明鑄物を介して本旨の良さに気づき、繰り返し訪れてもらう。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				観光客入込数		千人	目標 実績			8,600	8,700
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
天明鑄物の有効活用を図り、地域の活性化につなげる。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市内の文化財を知っている割合（天明鑄物）				%	目標 実績			76	76.5	77	
							69.3	72.5			

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)						
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0						
	県支出金	千円	0	0	0	0	0						
	地方債	千円	0	0	0	0	0						
	その他	千円	7	15	0	0	0						
	一般財源	千円	3,621	533	0	0	0						
	事業費計(A)	千円	3,628	548	0	0	0						
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					負担金、補助及び	400							
					需用費	69							
				共済費	50								
				委託料	24								
		旅費	5										
人件費	職員従事工数	人工	0	0.6	0	0	0						
	人件費計(B)	千円	0	4,372	0	0	0						
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,628	4,920	0	0	0						

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	天明鋳物のまちづくり推進事業	本年度担当課	文化推進課
		前年度担当課	文化推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	令和2年度に、市民や観光客が気軽に天明鋳物に触れ、興味関心を深める機会を提供したり、天明鋳物のまちづくりに有益な事業を実施するために設置された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	各種メディアで取り上げられることが増え、関心を寄せる人々が増える兆しがある。それに伴い、作品を見られる場所に関する問合せが増えている。また、さらに人々の目に留まるような機会の創出を望む声も増えている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	天明鋳物フェアでは、またやって欲しいという声をたくさんいただいた。また、田村耕一美術館（閑馬町）で開催した茶会も好評だった。「天明鋳物」が地域団体商標登録になり、鋳物業者や市民にも喜んでいただいた。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務の一部を委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
「天明鋳物発見！体験！フェア」や「田村耕一と天明鋳物 ふるさとの銘品に出会う会」といった事業を実施し、天明鋳物をより身近に感じてもらうことができた。また、商標登録が実現し、今後の認知度向上のための取組に役立つ成果となった。			成果向上余地がかなりある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症拡大の余波が残っているために、観光入込数が前年比で減少している。しかし、天明鋳物関連のイベントおける来場者は、定員があるものは定員を上回り、定員の設定を設けないものでも多くの来場があり、成果はあげている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品や職人を紹介する機会を増やす</li> <li>・流通やマーケティング等専門知識を有する人材との連携</li> </ul>	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大	○		現状維持（従来通り実施）			
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中						
	小						
		大	中	小			
		成果向上余地					

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業				本年度担当課	文化推進課
						前年度担当課	文化推進課
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	文化芸術活動の推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	文化資源の有効活用			任意・義務	任意の事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区分
	一般	02	01	17	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業		実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成2年度 ~		事業分類
						市長公約	
						総合戦略	
根拠法令・条例等 佐野市補助金等交付規則							

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
市内の郷土芸能保存・継承活動を行う11団体が、佐野市郷土芸能保存会連絡協議会を結成して活動している。伝統文化の育成を図るため、これらの団体の後継者育成及び活動を支援する。具体的には、同協議会に団体の人材育成と運営費補助としての補助金を交付している。平成23年度から旧市町の団体が統合され、協議会へ一本化した。				(1) 総会等の会議開催 (2) 郷土芸能フェスティバル開催 (3) 学校訪問事業(2校)								
								活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)
				協議会加入団体会員数	人	202	199	200	200	200		
				加入団体数	団体	12	11	11	11	11		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
佐野市郷土芸能保存会連絡協議会				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
				協議会加入団体会員数	人	202	199	200	200	200		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
目的	①協議会の円滑な運営と財政の健全化を図り、郷土芸能の保存・継承活動を継続的に行う。 ②郷土芸能保存・継承団体の後継者を育成する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					事業等の来場者数	人	目標					
							実績	-	450			
					事業への子どもの参画人数	人	目標					
実績	-	131										
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
特色ある地域資源の有効活用を図り、地域の活性化につなげる。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
				伝統芸能の発表の場への参加団体数	団体	目標						
						実績	-	4				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	87	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	480	513	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	480	600	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	600		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.22	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	1,603	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	480	2,203	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業	本年度担当課	文化推進課
		前年度担当課	文化推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成2年11月に、郷土芸能の保存・継承を図ることを目的に旧佐野市で設立した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	合併後に旧田沼・旧葛生地区の団体に呼びかけ、平成23年度に旧3市町の団体が加盟した。高齢化社会の到来に伴い、加入団体の高齢化が進んでいて、運営が困難となる団体の協議会からの退会が生じている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	加入団体からは郷土芸能保存・継承のため協議会への補助金等の更なる支援特に後継者育成に係る支援について要望を受けている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
感染状況の制限緩和により、事業実施が再開できたため。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
フェスティバルを再開したことにより、郷土芸能に触れる機会を提供出来た。また、学校訪問事業を行い、児童達へ「越名舟唄」をはじめとする郷土民謡を披露し、また体験させることが出来た。		コロナ禍前同等に発表の機会を設けることが出来る環境が整ってきている。事情により発表を行わなかった加盟団体も、イベントのサポート等を通じて、活動意欲が高まっている。よって、発表の機会の確保と共に様々な宣伝手段を通して、多くの市民に披露できる場を設ける。 学校訪問事業は「越名舟唄」等民謡民舞ジャンルで行ったが、協議会で話しあい、神楽等は他の郷土芸能にも対象を広げる。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施）	イベントにおいては、集客効果を上げる必要がありSNS等を新たに加えて広報を行う。会員の高齢化が進む現状で、後継者育成は重要な課題である。発表の機会を設けることに加え、若年層の会員の活動意欲を高めるような、活動紹介等の工夫を講じる。 引き続き、加盟団体間の連携を密にして、郷土芸能の保存継承に誇りを持って活動を行う意欲の維持向上に努める。
	中		○	* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 ①郷土芸能フェスティバル等発表の機会の充実 ②学校訪問事業の対象ジャンル拡大の検討	
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		牧歌舞伎地元公演支援事業				本年度担当課	文化推進課	
						前年度担当課	文化推進課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 文化芸術活動の推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 文化資源の有効活用				任意・義務	任意の事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	一部委託	
	一般	02	01	17	牧歌舞伎地元公演支援事業	事業分類	支援事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成2年度 ~		市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 佐野市補助金等交付規則								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
牧歌舞伎保存会に補助金を交付し、牧歌舞伎保存会が隔年で行う地元公演を支援している。  ※牧歌舞伎保存会とは、栃木県指定民俗文化財「牧歌舞伎」の保存、保護に寄与することを目的としている団体である。		牧歌舞伎地元公演 (令和5年2月12日(日)) 葛生アクトプラザにて開催						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		実行委員会の人数	人	22	22	22	22	22
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
市民		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
(交付対象団体)		佐野市民	人	116,982	15,700	113,710	113,010	112,327
牧歌舞伎保存会								
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
栃木県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」の伝承について理解を深める。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		地元公演の来場者数	人	目標				
				実績	-	600		
				目標				
				実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)								
特色ある地域資源の有効活用を図り、地域の活性化につなげる		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		伝統芸能の発表の場への参加団体数	団体	目標				
				実績	-	4		
				目標				
				実績				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		270		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		270		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	270						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.06		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		437		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		707		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	牧歌舞伎地元公演支援事業	本年度担当課	文化推進課
		前年度担当課	文化推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	牧歌舞伎は地元の牧歌舞伎保存会が伝承している。地元公演のときは、地元の人々が協力して公演を実施している。平成3年度から牧歌舞伎の支援と地域の活性化のために開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	保存会が発足して、30年が経過し、会員も年齢が高くなり、後継者育成が必要になっている。また地元関係者の高齢化が進んでいる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	（対象者の保存会からの要望） 後継者育成に係る金銭面等支援 多くの演目を披露するための衣装等の作成に係る金銭面等支援

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	「休止により対象外」

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
「休止により対象外」			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
牧歌舞伎保存会が約5年半ぶりの開催にむけて、宣伝広報を積極的に行い、市もその協力を行った。		後継者の育成を行い団体の安定的活動を行う必要がある。令和5年度に葛生地区の小中学校統合が行われるが、児童、生徒への後継者育成を継続できるようにする必要がある。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 後継者育成の継続	団体の活動が安定的に行えるように、青年、若年層の参画を支援する。
	中				
	小				
	成果向上余地				



# 事務事業マネジメントシート

事務事業名	佐野市に関する美術作品等調査研究事業				本年度担当課	文化推進課
					前年度担当課	文化推進課
政策体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		新規・継続	継続事業
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり		実施計画・一般	一般事業
	施策	01	文化芸術活動の推進		市単独・国県補助	国県補助事業
	基本事業	02	文化資源の有効活用		任意・義務	任意的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名	
	一般	10	04	07	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~		
根拠法令・条例等	博物館法 佐野市立美術館条例					

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
佐野市に関する美術作品等研究に関する経費			①収藏品・借用品の調査及び整理 ②佐野市関連作品の所蔵家訪問調査・各種問合せ対応 ③関連資料の収集・調査・・・尾形乾山に関する作品調査等						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		資料購入・寄贈寄託受入点数	件	1,983	1,983	1,000	1,000	1,000	
		図書・文献複写資料収集件数	件	230	230	100	100	100	
		実地調査件数	回	40	40	20	20	20	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
・美術館収藏品(所蔵品・寄託品)・借用品 ・訪問調査等を行った佐野市に関する美術作品及び関連資料			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			美術館収藏品数	点	3,462	2,000	1,500	1,500	1,500
			収藏品以外の美術作品調査数	点	500	200	150	150	150
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
目的	①佐野市関連の美術作品及び収藏品に関する情報収集により、各作品の芸術的・歴史的意義を明らかにする。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			展覧会で新しい情報を提示できた作品数	点	目標 50 実績 50	50 40	50	50	50
			解説パンフレットや図録などの発行回数	回	目標 2 実績 3	2 1	2	2	2
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)									
佐野市に関する作品等の調査を重ねることにより、企画展のさらなる充実を図り、文化・芸術に触れる機会の充実を図る。 気軽に文化・芸術に触れられる。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			吉澤記念美術館入館者数	人	目標 3,000 実績 2,985	5,000 4,745	5,500	6,000	6,500

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	255	28	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	255	28	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					旅費	18		
					役務費	10		
人件費	職員従事工数	人工	1	1	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	7,327	7,287	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,582	7,315	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	本年度担当課	文化推進課
		前年度担当課	文化推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成13年度美術館開設準備室の設置に伴い開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	少子高齢化による社会保障費の増大などにより、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。 美術作品を収集してきた方が高齢になり、作品の調査依頼が増えてきている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	催事のアンケートなどで、「市立美術館として、市内全域にある美術品や、市に関係した作家の作品も収集展示してほしい」との要望がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				